

2006年(平成18年)6月17日

小児喘息改善に有効

出雲土建(出雲市神門町、石飛裕司社長)が島大医学部などと共同研究を継続している小児気管支喘息(ぜんそく)患者への調湿木炭「炭八」の効果について、同医学部助手の竹谷健・医学博士(小児科)〔写真〕が、このほど開かれた日本アレルギー学会臨床大会で「有効な媒体である可能性が示された」と発表。出席した全国の専門家から大きな関心を集めました。

6カ月後の調査では、定期以外の受診回数減など7人中6人が何らかの改善があったと答えた。

小児気管支喘息患者の多くに見られるダニ・アレルギーをなくすためにはダニ



調湿木炭「炭八」

島大医が学会発表

研究は04年1月から、小児気管支喘息患者の男女7人(3~10歳)の自宅床下敷設前カビ胞子数32個→減少、治療点数低下、呼吸や天井に調湿木炭「炭八」(カ月後8個→2カ月後1個)機能のPEF数値上昇など

胞子数が減少(10歳児例)→んめいや学校の欠席回数を減らすことが課題だが、炭八の調湿効果によりダニを繁殖させるカビが減少。

3カ月後にはカビしたほか、せき・喘鳴(たど症状の改善が見られた。喘息の一因とされる高湿度

を低下させたことが症状の改善につながったと分析する。今後、10人程度の患者を対象に比較試験を行い、研究の信頼性を高めたいと

している。

炭八の調湿効果は、島大総合理工学部との共同研究で実証されており、今年2月には調湿能力を最大限に發揮する炭の粒度と透湿性の袋の特許を取得。今後、

日本木材学会(8月)や日本建築学会(9月)でも学術発表を予定している。ま

た、医学分野ではアトピー性皮膚炎への有効性についても研究を進めている。石飛社長は「炭八の調湿効果が、建築界や医学界で認められるようになった。今後も地域完結型のリサイクルで健康住宅を追求していくたい」と話す。